

旧耐震基準の木造住宅の除却における容易な耐震診断調査票

記入例

調査日時: 令和6年〇月〇日 〇〇時  
 調査者氏名: 株式会社〇〇建設 〇〇 〇〇

調査者が法人の場合は会社名も入力してください

I) 建築物の概要

- 1. 建築物の所有者: 〇〇 〇〇
- 2. 建築物所在地: 燕市〇〇町〇番〇号
- 3. 階数: 2 階

両方にチェックがつかない住宅は対象外になります

3階建て以上は対象外

II) 前提条件の確認(いずれも必須)

	チェック欄
木造住宅である	✓
昭和56年5月31日以前に新築の工事に着手した	✓

特殊工法は対象外

III) 一見して倒壊の危険性があると判断できる項目  
 (1以上ある場合は倒壊の危険性があると判断)

1項目以上、チェックがついた場合は診断終了になります  
 「IV) 壁の割合」の計算は不要です

建物全体	全体又は一部に崩壊がある	
	全体又は一部に傾斜や変形がある	
地盤・基礎	地盤沈下が生じている	
	基礎がコンクリート以外(玉石、石積み、ブロック等)である	
	基礎がコンクリートであり、ひび割れや欠損が見られる	✓
老朽・腐朽	柱、梁、壁、土台等の構造部に白蟻の被害がある	
	柱、梁、壁、土台等の構造部に腐朽が見られる	
	柱、梁、壁、土台等の構造部に損傷や欠損が見られる	

「III) 一見して倒壊の危険性があると判断できる項目」にチェックがつかなかった場合は、「IV) 壁の割合」に進んでください

IV) 壁の割合

一見して倒壊の危険性があると判断できない場合でも、壁の割合が0.8未満である場合は、倒壊の危険性があると判断できるものとする。

	(イ)	(ロ)	(ハ)	(ニ)	(ホ)壁の割合
方向	壁の長さ(m)	建面(m <sup>2</sup> )	イ/ロ	必要値	ハ/ニ
X	27.50	75.00	0.37	0.20	1.85
Y	20.00	75.00	0.27	0.20	1.35

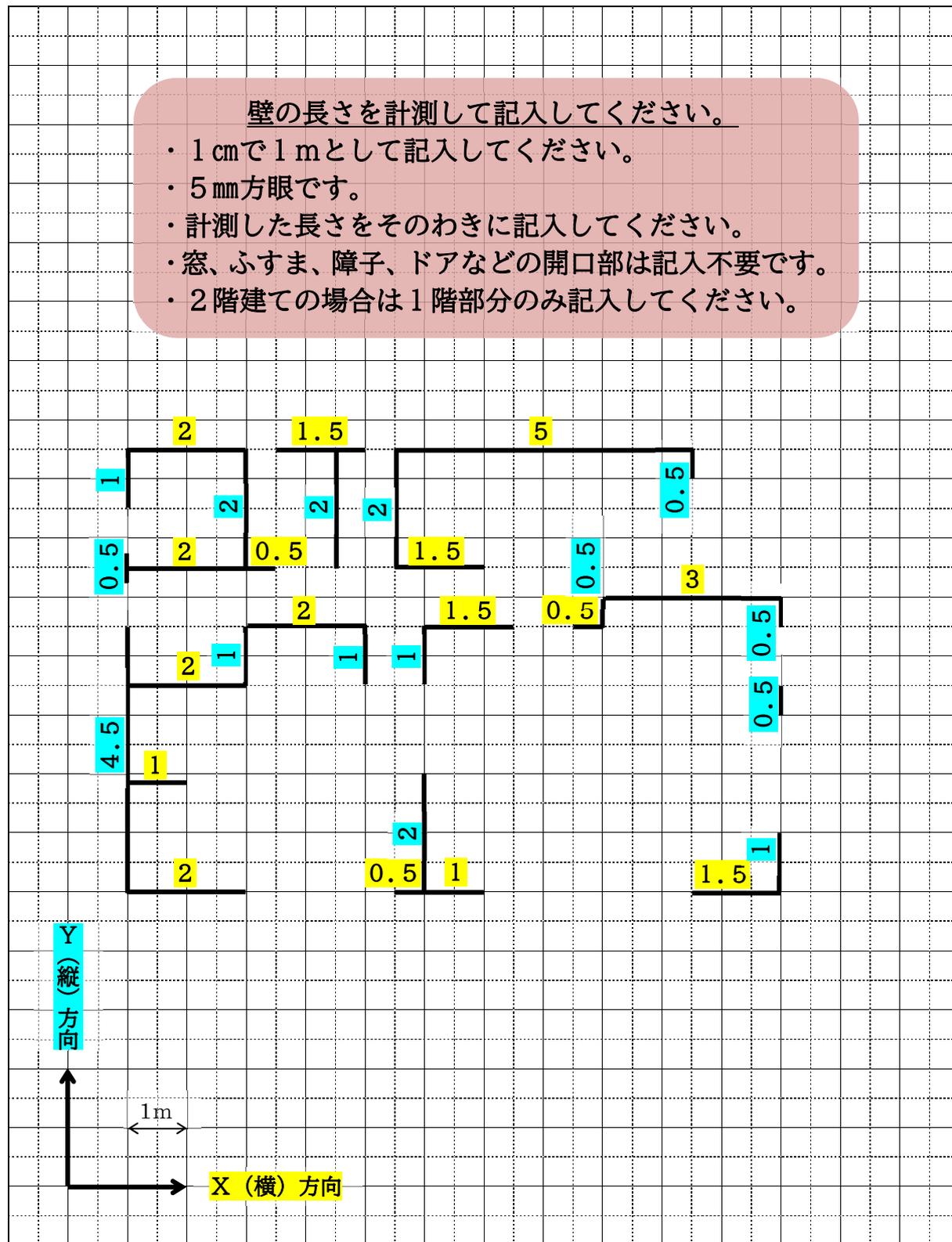
自動計算のため、入力不要

IV) 壁の割合 記入用紙

壁の長さの計測

壁の長さを計測して記入してください。

- ・ 1 cmで 1 mとして記入してください。
- ・ 5 mm方眼です。
- ・ 計測した長さをそのわきに記入してください。
- ・ 窓、ふすま、障子、ドアなどの開口部は記入不要です。
- ・ 2階建ての場合は1階部分のみ記入してください。



「(別紙) IV) 壁の割合 記入用紙」を参考に、壁の長さを計測してから入力してください(2階建ての場合は1階部分のみ)

(イ) 壁の長さの合計

① X(横)方向

① 27.5 m

② Y(縦)方向

② 20 m

①②のうち小さいほうを記入してください。

イ 20 m

自動計算のため、入力不要

(ロ) 面積

□ 75 m<sup>2</sup>

住宅の床面積を入力してください  
(2階建ての場合は1階部分のみ)

自動計算のため、入力不要

(ハ) 単位面積あたりの壁の長さ

イ 20 ÷ □ 75 = ハ 0.27

(ニ) 必要な壁の長さ

ニ 0.20 m

下記表を参考にプルダウンリストから数値を選択してください

下の表から該当するものを選んで記入してください。

屋根の種類 \ 階数	平家	2階建
軽い屋根 (鉄板葺・石綿板葺・スレート葺等)	0.20	0.52
重い屋根 (かや葺・瓦葺等)	0.27	0.59

(ホ) 壁の割合

ハ 0.27 ÷ ニ 0.20 = ホ 1.35

自動計算のため、入力不要

部分に該当する数値を入力すると計算されます。

0.8未満は倒壊の危険性があると判断します